鹿児島県ＩＰＭ実践指標

（水稲）

鹿児島県ＩＰＭ実践指標のねらい及び実施・確認上の留意点（水稲）

|  |  |
| --- | --- |
| 実践事項 | ねらい及び実施・確認上の留意点 |
| 発生予察侵入病害虫対策IPMの情報収集 | ねらい | IPM技術の向上を図るため，実践者自らが発生予察及び最新の情報収集等を実施する。関係機関及び団体等の指導者は，研修会や講習会の開催等を通じて積極的に情報を提供する。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施した年月日２　対象病害虫３　活用した発生予察情報４　参加した研修会や講習会と参加日※研修会や講習会に参加できなかった場合には，「鹿児島県IPMネットワーク」への加入で条件を満たすこととし，加入者であることを記載する。５　その他活用した情報等 |
| 記帳管理 | ねらい | 　効率的に次作の計画を作成し，技術の改善等を図るため，実施した作業の時期及び内容等を記録する。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容　実施の有無を記載することで条件を満たすが，記帳管理簿又は電子データ等は別途保存しておく。 |
| 健全種子の選別 | ねらい | 　種子を通じた病害虫のまん延とほ場への持ち込みを防ぐため，塩水選を実施するとともに，定期的に種子更新を行う。　なお，種子更新は毎年行うことが望ましい。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　塩水選の実施の有無２　種子更新を実施した場合はその旨を記録 |
| 適正な品種の選定 | ねらい | 　実践内容のとおり。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　選定した品種と栽培面積 |
| ほ場及び周辺の管理 | ねらい | 　実践内容のとおり。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 土壌及び施肥管理 | ねらい | 　土壌の適正な物理性及び化学性の改善と保持を通じて，健全な植物体を育成するため，作物ごとの土壌改良基準及び施肥基準を遵守する。 |
| 土壌及び施肥管理 | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　土壌診断を実施した場合には，診断実施機関及び診断ほ場面積２　生育診断の場合には，実施の有無３　作物ごとの施肥基準量の把握の有無 |
| 代かき作業 | ねらい | 　農薬の効果を安定させるためにも，代かき作業を丁寧に行い，漏水を抑える。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 移植作業 | ねらい | 　健全な植物体を育成するとともに，病害虫の発生しにくい環境を作るため，作期及び品種に応じ，適正な時期に，適正な栽植密度及び本数を移植する。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 不要苗の除去 | ねらい | 　病害虫の発生源とならないよう，不要な苗は除去する。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 雑草管理 | ねらい | 　病害虫の発生しにくい環境を作るため，ほ場及び周辺の雑草管理対策を実施する。　斑点米カメムシ対策には，まずは水田周辺のイネ科植物を管理することが重要な対策である。　なお，本項目の雑草管理対策とは，雑草の除去だけでなく，カバープランツの利用等の積極的な植生管理まで含む。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無２　カバープランツを利用した場合には植物名 |
| 耕耘作業 | ねらい | 　実践内容のとおり。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 侵入防止対策 | ねらい | 　実践内容のとおり。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 温湯種子消毒 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 微生物殺菌剤の利用 | ねらい | 　種子への病原菌の侵入を防ぐため，拮抗作用を有する微生物由来の生物農薬を利用する。 |
| 留意点 | 　種子消毒を目的とした生物農薬については，IPM実践指標総論を参照。自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　利用した資材名 |
| 土着天敵の保護（発生予察に基づく防除） | ねらい | 　土着天敵の保護を図るため，必要に応じた防除を実施する。　なお，付表に示す被害許容水準はあくまでも目安として活用し，実践者自身の経営における被害許容水準を持つことが重要である。また，自ら観察を実施することで，水田に生息する土着天敵の種類を知ることも重要である。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 土着天敵の保護利用（選択的農薬の利用） | ねらい | 各種害虫に対して化学合成農薬で防除を実施する際，土着天敵（クモ，ダニ，昆虫等）の保護利用が図られるよう，土着天敵に影響が小さい農薬（選択的農薬）を利用する。　なお，付表３の選択的農薬については，「鹿児島県IPM実践指標策定要領（IPM実践指標に掲載する農薬の考え方）」に基づき，一定の要件を満たす農薬を例示した。「鹿児島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の中で定める，化学合成農薬使用成分回数を目標とし，所定の回数の範囲内において，効果的に選択的農薬を利用できるように努めることとする。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無２　選択的農薬以外を使用した場合には，農薬名とそれを使用した理由※選択的農薬を積極的に取り入れることがねらいであり，リスト以外の農薬の使用を制限するものではないが，リスト以外の農薬は，選択的農薬では防除できない，あるいは防除が困難な場合など，必要最小限の使用に努めること。選択的農薬は，全ての天敵に対して影響がないものだけではなく，一定のグループ数の天敵に対して影響がないものを例示してあり，影響の詳細については，IPM実践指標総論の付表を参照すること。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 苗箱施用剤による予防措置 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |
| 農薬の使用全般 | ねらい | 　本実践項目に記載する内容は，農薬の適正使用，農薬飛散防止対策及び関連法規の遵守等において必要なものを記載した。　なお，処理後の落水にあたっては，各薬剤で定められた指導基準を遵守すること。 |
| 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容１　実施の有無 |

